

津山市史だより

2015.3
第2号



昭和8年製の旧市庁舎引込用水道管と建設中の市庁舎の古写真（右上・江見写真館提供）

水道管接合部の刻印「●水② 昭和八年 3549 ◎S^K」

※●は津山市の市章「剣大」か、海軍の錨のマークか、表面の摩耗により判別できかねる状態。

この水道管は、昨年8月から12月まで山下で行われた配水管更新工事にとまない、不要となって掘り出されたもので、管の内径は10cm、外径は12cmです。太い接合部の外面の刻印などから、昭和8年（1933）に久保田鉄工所（現・株式会社クボタ）が製造した水道用の高級鑄鉄管であると判明しました。配水の本管から旧市庁舎（現・郷土博物館）への引込部に用いられていました。

昭和8年当時は、市庁舎の新築工事と水道の敷設工事が同時に進行中で、昭和4年に発足したばかりの津山市にとって、初めて直面した大きな課題でした。それら諸課題の生き証人が、この水道管だといえます。市庁舎は8年中に竣工して翌9年2月に移転が行われ、水道工事もこの時期に竣工して9年4月に通水祝賀会が開かれました。

この前年には5・15事件で犬養首相が暗殺されて軍部が台頭し、翌9年9月には室戸台風が西日本に甚大な被害をもたらし、津山市も大洪水に見舞われています。こうした世相を考えれば、この時期に上水道敷設工事を実施・完了できたのは、極めて幸運であったと言わざるを得ません。

（小島）

新年度の事業計画を審議

田村教育長の開会あいさつの後、すぐ議事に入り、事務局から26年度の編さん事業の内容や各部会での審議・調査状況を報告しました。続いて、今後の事業計画の協議に移り、編さん計画の一部修正および新年度の事業計



26年度第1回編さん委員会

平成27年2月25日 於郷土博物館研修室

画について、事務局の提出案をもとに審議しました。

その中で、今まで以上に活発な広報・啓発活動を展開すべきであるとか、複数の部会での合同調査が必要ではないか、などの意見が出されたほか、調査すべき資料の所在情報も提供されるなど、有意義な議論が行われたうえで、新年度の事業計画が了承されました。

『津山市史研究』創刊

新しい市史の発刊に先がけて、調査・研究内容の発表や新発見資料の紹介、編さん事業の周知・広報を行なうため、『津山市史研究』を創刊します。3月末に発行する創刊号の内容は、以下のとおりです。

- ・安倉清博「『民具』への視点と展望
-津山市所有民具の現状と
市史への活用-」
- ・森元辰昭「津山地域の金次郎像・
報徳運動の研究（その1）」
- ・東昇「近世後期津山藩の築をめぐる
領主と領民」
- ・森俊弘「宇喜多直家の新出書状
-祝山城をめぐる攻防戦の関連史料-」

編さん事業の経過（平成26年10月～）

平成26年
10月1日 「市史だより」創刊号発行
11月23日 近世部会巡見
12月6日 第3回近現代部会
12月7日 第3回民俗部会
12月13日 考古・古代部会合同巡見

平成27年

1月31日 第1回中世部会
2月8日 第2回近世部会
2月17日 第1回考古部会
2月25日 第1回編さん委員会
3月20日 第1回古代部会
3月22日 第4回近現代部会
3月30日 第4回民俗部会
3月31日 「市史研究」創刊号
「市史だより」第2号発行

※各部会の執筆者として、新たに左の方々が加わりましたので、ご紹介します。

（敬称略）

白石 純 岡山理科大学教授 自然風土・考古
遠藤健治 美作大学准教授 近現代

部会通信

◆自然風土・考古部会

(部会長…河本委員、副部会長…可児委員)

部会を2月に開催し、通史編の章立てと分担の再確認を行い、新たに岡山理科大学の白石純氏に「旧石器時代」を、可児委員に「縄文時代」を執筆していただくことになりました。

資料編では、自然風土の掲載と、考古の時代ごとの掲載遺跡がほぼ決定したほか、「須恵器の窯の磁気探査をしては?」「消滅古墳は古写真から墳丘が復元できないか?」などの意見が出ました。今後、こうした意見をふまえ、資料編の編集に必要な作業を行います。

◆古代部会

(部会長…狩野委員、副部会長…今津委員)

12月に市内の巡見を実施し、佐良山の中宮・剣戸塚古墳群などの後期古墳、久米地域の久米廃寺・宮尾遺跡や稼山の製鉄遺跡などを調査しました。

古代編の内容構成については、副部会長の今津委員を中心に現在協議しています。これに基づき、市内の遺跡や遺構などの調査を今後実施していく予定です。

◆中世部会

(部会長…三好委員、副部会長…久野委員)

今年度中に巡見を行う予定でしたが、日程が折り合わず、年度内の実施を見送りしました。1月に部会を開き、通史編の章立て案や今後の資料収集の方針を協議しています。その中で「活字化済みの資料でも、翻刻が間違っている例もあるので、原本が写真をできるだけ確認する必要があるのではないか」などの意見が出ました。

そうした意見もふまえて、調査が必要な資料の選定を今後早急に行い、調査活動を順次実施していきます。

◆近世部会

(部会長…定兼委員、副部会長…在間委員)

本格的な調査活動を開始した今年度は、地域の土地勘の把握のため11月に巡見を実施したほか、手始めとして個別に郷土博物館収蔵資料の閲覧調査をしたうえで、採録候補資料を集約・検討して、今後の調査で掘り起こすべき分野を把握しました。

新年度は、博物館資料のうち大きな文書群からの選別と個人所蔵資料の調査を進めるとともに、通史編章立て案を練り直しながら、あわせて執筆分担も詰めていく予定です。

◆近現代部会

(部会長…在間委員、副部会長…香山委員)

今年度の前半に通史編の章立て案の調整を進めていたところですが、12月に開いた部会で執筆分担が大まかに決まりました。また、美作大学の遠藤健治氏を執筆者として加えることになりました。

8月の巡見調査を受け、各支所で保管している行政文書について、事務局で本格的な調査を開始しました。そのほか、各自で個別調査を行い、近現代編の完成に向けて、歩みを進めています。

◆民俗部会

(部会長…前原委員、副部会長…安倉氏)

市内各地を回って、地域に関する様々な項目の聴き取り調査を進めています。同時に、民具の調査、地域で行われている祭礼の調査も実施しました。今年度は部会を4回開き、調査報告と調査上の問題点の協議を重ね、情報の共有化と調査精度の向上を図っています。

民話の調査では、勝北や加茂に引き続き、田邑などで調査を進めました。また、公民館などで高齢者が集まる行事に出向き、アンケート調査を実施しています。

旧市史のPDFデータを公開中

旧版の『津山市史』は、全巻完結までに長い年月を要したため、全7巻のうち第4巻（近世Ⅱ：松平藩時代）と第7巻（現代Ⅱ：大正・昭和時代）は、販売用の在庫がありますが、その他の5巻は在庫が切れて久しく、全巻をまとめて揃えたいという要望に応えられない状況が続いていました。

これから新しい市史を編さんいたしますが、刊行が完結するまでの間、そうしたご要望に少しでも対応するため、旧版市史の全巻をPDFデータに変換し、郷土博物館のホームページ上で公開しています。このデータは文字検索が可能で、調査研究に重宝しますので、すでに紙の本で揃えている方も、ぜひご利用ください。

▽郷土博物館ホームページ (<http://www.tsu-haku.jp>)

↓教育・普及 ↓津山市史PDF公開 (左の画面)



▽調査レポート：太田日吉神社の奉納額



奉納額の赤外線写真

市内川崎太田の町内会長さんから、町内の日吉神社に古い奉納額があり、汚れていて読みにくいが、どうも番付のようだとの連絡を、市史編さん室にいただきました。そこで、歴史まちづくり推進室の職員と共に調査に伺いました。

日吉神社は山王権現を祀る神社で、太田の氏神として山王さまと呼ばれて親しまれています。保存されていたのは2枚の額で、明治13年1月と大正4年4月の相撲番付でした。東西に分かれた多数の力士の名前が記載されており、盛んだった相撲興行の様子を伝えています。(尾島)



調査の様子

汚れなどで読めない墨書も、赤外線カメラで撮影すると、右のようにはっきりと浮かび上がります。

津山市史だより
第2号

発行：平成27年3月31日
編集：津山市史編さん室

〒708-0022 岡山県津山市山下92 津山郷土博物館内
TEL：0868-22-5820 FAX：0868-23-9874 Eメール：tsu-haku@tv.tn.ne.jp